

# 2013年度 国際農業文化理解プログラム報告書

メンバー 二宮 寛明  
渡辺 誠也  
和田 のどか  
陳 紀嘉  
佐藤 智美

## はじめに

このレポートは、2013年11月10~17日までのタイに行き農業を学ぶ国際農業プログラムについての6月から行われた事前研修からタイに行くまでの内容をまとめたものです。

### 1 事前研修

1回目と2回目の事前研修は、食料環境政策学科坪田先生による、FAOに関する講義でした。FAOの成り立ちから、政策、現在の食料問題の問題点などすべて英語での講義でした。この2回は、パワーポイントからプリントからなにから何まで英語で、次回の研修の事務説明まで英語で行われました。その次以降の研修ではタイの文化や歴史また言語など学びました。印象深かったのは、異文化コミュニケーションというテーマの研修で、タイにある明治大学のアセアンセンターにいるタイ人であるウィライラック先生によるタイ語を教えてくださいという授業でした。(図1) この授業はテレビ電話のようなものを用いました。日本の教室で、タイにいる先生が授業をするという初めての体験だったので、とても驚きました。また、タイに留学していた明治大学の学生の話聞く回もありました。これら数回による研修によりガイドブックを読むだけでは仕入れないタイの生活を聞くことができ、タイに行く心構えができたように思えました。

夏休みに夏期集中講義としてFAOの事務局長である小沼廣幸さんによる国際農業機関論という授業をとり、めったに聞くことができない国連機関であるFAOのお話をうかがいました。また、食糧危機をどうすれば改善できるのか一人一人前にでて喋るパネルディスカッション形式で授業を行いました。学生一人一人の意見に耳を傾け、感想や補足説明をしてくださいました。この授業により、改めてFAOの凄さを実感するとともに、色々な意見があるということを感じました。

最後の事前研修では、タイで行われる模擬国連会議のリハーサルでした。(図2) 今回のプログラムの特徴としてただ、施設や大学を回るだけでなく、FAOという国連機関の場所を借り、タイの学生と模擬国際会議を行うということが決まっていました。そのため、夏休みを含めて何ヶ月も準備をすることになりましたがこの日のリハーサルが、最初で最後の他の班の進行状況がしることができるとともに、このようにし、6月にこの農業プログラムに参加することが決まり、11月にタイに行くプログラムでしたがその間の半年間は何もしないのではなく、色々な準備をする半年となりました。



図1 タイ語の授業風景



図2 模擬国連リハーサル風景

## 2 市場視察

### ● オートコー市場視察（図3）

ここはタイ農業協同組合による市場であり、広くて清潔感があり、野菜や果物、魚や乾物、お菓子、その他雑貨等、様々なものが売られています。値段は屋台などで売られているものよりも、若干高いですが、高品質のものが揃っています。ドラゴンフルーツやマンゴスチン、ランブータン等タイならではのフルーツの他、「コアラのマーチ」や「キットカット」等日本のお菓子も見つけることができました。（やはり日本で売られている時よりはるかに高額であった）また、ココナッツやドリアン等の果物を買くと、その場で食べられるようにカットしてくれます。鉈のようなものでココナッツの殻を割る様子は、見物でした。また、市場は屋根で覆われていたので、雨でも安心して巡れそうでした。



図3 オートコー市場の様子

### ● ダムヌン・サドゥアク水上市場（図4）

ダムヌン・サドゥアクの運河に、文化の保護と観光の目的で開発されたマーケット。ここでは、小舟に乗って、運河を移動し、食べ物やお土産等を売っている小舟や店に近づき、そこで物品の売買を行います。ここでの売買の大きな特徴は、店側と値段の交渉ができるという点です。例えば、始め 400 バーツという値段であったお土産が主人との交渉次第では、100 バーツ程度で購入できることがあります。（ただし、食べ物の値段に関しては基本的に交渉はできないようです。）ここで売られているものは、食べ物では、パイナップルやバナナのフライや、「パットタイ」と呼ばれるタイの焼きそばが、食べ物以外のお土産では、仏像の置物や絵、また帽子の形に変形する扇子等が売られています。ちなみに小舟の操縦は女性の方が若干うまいように感じました。また、船着き場の周辺にも土産物や食堂があったので、運河で食べることのできなかつたもの等はここで買うこともできます



図4 水上市場 船からの様子

### 3 蘭園

蘭園（図5）では、非常に多種多様なランが広大な土地で栽培されていました。ランは地上から宙に浮いて栽培されている種が多く、パイプで水を得ていました。色もカラフルで、匂いを楽しむ種もいくつかあり、とても良い匂いがしました。屋根がある所は特に気温が高く感じ、日本のラン園とは違う特徴があり、例えばココナツの皮の培地で栽培されていたり、コンクリートのブロックを植木鉢にしていたりしました。蘭園の中に池や、橋があり、景観がとにかく綺麗なのも、中々日本ではないことだと思いました。



図5 蘭園の内部のようす

### 4 タニヤマサイアム社での工場視察

#### ● アスパラ圃場（図6）

日本向けの輸出を行っているタニヤマサイアム社を訪問させて頂きました。アスパラ農園では、アスパラを扱う利点や、苦勞する点をお聞きしました。アスパラは、初期費用が掛かり、一年半はアスパラがでないそうですが、それ以降は10年ほどは安定して収穫できるそうです。暖かいタイでは年中アスパラを収穫することができる代わりに糖度が少なく、ミニアスパラガスという新たな商品価値を生み出しました。ビジネスを行うのに、新たな付加価値を生み出すことは非常に大事なことだと分かりました。管理もきっちりとしていて、農薬の取り扱いも徹底して気をつけていました。日本に来るものを実際に見ることができたことは、貴重な体験となり、帰国後もタイの野菜を買ってみようという気持ちになりました。

#### ● タニヤマサイアム社の工場見学（図7）

農園を見学後は実際にタニヤマサイアム社の工場にお邪魔して、パッキングの工程などを見学しました。一番印象に残っているのは、オクラの形や大きさを選別するところで、人海戦術を使って横に並んで仕事をしていたことです。皆 清潔感にあふれる白衣をきて、一生懸命選別をしていました。工場の見学が終わった後は、部屋でタニヤマサイアム社の説明を受けました。タニヤマサイアムでは、主にオクラ、アスパラ、マンゴーを栽培していて、タイから日本への輸出の中で多くのシェアを占めています。また、タイの他にラオ

スでも事業を展開していて、規模を大きくしているそうです。日本では知ることでできない企業の秘密の数々を、今回知ることができ、大きな経験となりました。



図6 アスパラ圃場



図7 工場内部オクラの仕分け作業

## 5 模擬国際連合会議

11月15日(金)、タイ滞在6日目に、私たちはタイのカセサート大学の学生たちとともに、“What can we do for Reducing World Hunger and Poverty?” 「飢餓と貧困を減らすために私たちは何ができるのか」というテーマで模擬国連を行いました。会場はバンコクのFAOアジア太平洋事務所の会議場。事務所長である小沼廣幸先輩(明大農学部卒)をはじめ、FAO職員の皆様の全面的なご支援によって開催された、学生の国際会議でした。(図8)

### ● 模擬国連の流れ

模擬国連は、①プレゼンテーション、②質疑応答・議論、③結論、という順序で進められました。「飢餓と貧困」という大きなテーマについて、明大生で5班、カセサート大生で2班の計7班に分かれてプレゼンを行い、議長の采配のもとでその内容について議論し、その結果をラポーターがこの会議の結論としてまとめる、という流れです。使用される言語はもちろん全て英語です。議長とラポーターは2名ずつ(明大生から1名、カセサート大生から1名)選ばれました。



図8 模擬国連開催のようす

## ● 模擬国連の準備

### I. 事前研修

この模擬国連の指導をして下さったのは、FAO 職員の経験がある坪田邦夫特任教授です。このプログラムへの参加が決定した 6 月、私たちはまず、「FAO とは何か」「世界の飢餓と貧困」「国際会議の進め方」について、坪田先生から英語で講義を受けました。模擬国連がどのようなものなのかまだよくわからなかった私たちは、慣れない英語の講義に驚きつつも、これから始まる英語での模擬国連の準備に身が引き締まりました。

### II. プレゼン準備

プレゼンの班分けが決まり、夏休みから本格的にプレゼンの準備が始まりました。班ごとに様々な「飢餓と貧困」へのアプローチを考えましたが、すべての班に共通していた視点は“what we can do”です。飢餓と貧困を減らすために、一般論でなく、「自分たち自身が何ができるのか」を考え続けました。何度となく坪田先生に相談し、英文を推敲してもらい、10 月には全体でリハーサルを行って、徐々に完成に近づいていきました。タイ滞在中も明治大学アセアンセンターを夜遅くまで開けてもらい、最終的な調整を重ねました。

### III. 議論の準備

この模擬国連は国際会議です。会議は発表をして終わりではなく、議論をして、最後にそれをまとめた結論を出さなければなりません。たくさんの意見を一つの結論にまとめていくためには、どう議論すればいいか。議長とラポーターを中心に、当日の議論の内容を予測しながら議論の進め方を考えました。

### IV. 模擬国連本番

飢餓と貧困を減らすために、FAO のムービーと小沼先輩のスピーチから、模擬国連は始まりました。FAO 職員の方々や読売新聞の記者の方が傍聴され、皆緊張です。計 4 時間 30 分、議長が議事の進行具合を見計らいつつ会議は進みました。コーヒープレイクを挟んで各班のプレゼンが終わり、FAO 職員の方からプレゼン内容を称賛して頂いて、ホッと一息です。質疑応答ではいくつか難しい質問も出てきましたが、わからないことは FAO 職員の方々が解説しサポートして下さいました。最後にラポーターがそれぞれの意見を結論にまとめて発表し、模擬国連は閉会しました。(図 9)



図 9 プレゼン発表の様子

## V. 模擬国連を終えて

模擬国連の後は、FAO 職員の方々、カセサート大生との懇親会です。チャオプラヤ川の美しい夜景を堪能しながら、気を抜いて楽しく歓談しました。

この模擬国連は、私たち誰にとっても初めての経験であり、大きなチャレンジでした。大変なことは多々ありましたが、お互いの専門や得意分野、経験を活かして協力し乗り越えることができました。FAO 職員の方から「想像以上の内容」と評価を頂くことができ、本当にうれしく思います。プレゼンがうまくいかなかったり、英語での議論が予想以上に難しかったり、決して成功ばかりではありませんでしたが、それらの反省も含めて素晴らしい経験をさせて頂いたと思います。

## 6. 大学交流

私達は、シーナカリンウィロート大学、カセサート大学、キングモンクット工科大学の3大学に訪問し、タイに関して食文化や農業を学びつつ、タイ学生と交流することができました。

### ● Srinakharinwirot University

タイに到着してから2日目シーナカリンウィロート大学にて、シーナカリンの学生と共に Supaporn Sophonputtanaphoca 先生による農業生産物利用学と Worapan Sitthithaworn 先生による薬草学を学びました。

農業生産利用学では、麦の茎から部分から、バイオ燃料を作るという最新技術を学ぶことができました。バイオ燃料に関して、今まではトウモロコシなどを原料にしてバイオ燃料がつくられるという問題を解決する画期的な技術でした。

薬草学では、タイ人にとっての薬草はどんなものか学ぶことができました。薬草はマーケットで簡単に購入することができ、また、料理にも使われます。タイ人にとって、薬草はとても身近な存在です。薬草の実物を見て楽しみ、匂いをかいで楽しみ、また実際にかんでみることで、『良薬は苦い』ということ、身を持って学びました。

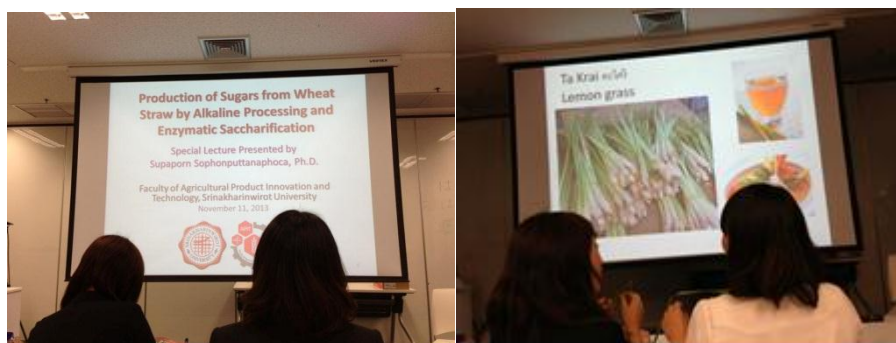


図 授業風景

### ● Kasetsart University

カセサート大学の学生と顔合わせをし、FAO を共に行う仲間と初めて会うことができました。

授業では、タイでとれる果実や花の紹介、また、タイにおける農業を学びました。

日本ではなかなか見ることのできない果実が多く、驚きの連続でした。オーターコーマーケットや水上マーケットでも見かけた果実がどんな加工をされ、どんな商品として扱われているのか、深く知ることができました。

授業の次は、昆虫博物館へ行きました。ドームのようなところで、昆虫が放し飼いにされ、日本ではみたこともない、きれいな模様の蝶をみることができました。また、たくさんの昆虫が展示されているブースにも向かいました。ここでも、日本ではみることはできないような種も多く、また、絶滅危惧種なども展示されていました。

最後には、アニマルサイエンスを学んでいる学生がお肉を切ったりするところへと行きました。大きなお肉の塊を切り、袋詰していく、生産ルートを学ぶことができました。

また、ウシを飼っている牧場も見学することができました。陽気なカウボーイ風な先生方が、クイズを交え、海外のウシとたくさんの交雑を経て、今の良質なお肉になったことを教えて下さいました。



図 昆虫博物館

#### ● King Mongkut's University of Tehcnology Thonburi

ここでは、タイの薬草・果実などを総括的に学ぶことができました。

実際に触れ、食すことができました。

また、その後には、キングモックの学生と共に、タイの料理やおやつを調理実習することができました。

トムヤムクンなど、お店で食べるときにはわからない、原材料などを知る機会でもあり、自分の好みにあわせて作ることができました。ともに作ることで、学生との良い交流の機会にもなりました。

そののち、学生と共にタイの遊びを行い、言葉を交わさずとも、関係を深めることができました。





図 調理実習 学生との交流会

授業で、タイの食文化・農業を学ぶだけでなく、タイの学生とふれあうことで、タイの文化にも触れることができるとてもよい機会となりました。

## 7 自由行動

### ● 夜の食事

懇親会等がない日の夜食は主にターミナル2 1内のレストランやその近くの食堂へ行きました。トムヤム・クンやグリーンカレー等の日本でも有名なものもあれば、カーオ・オブ・サップロツというパイナップルを容器に使った蒸しごはんやプー・パツ・ポン・カリーというカニをカレーソースで炒め、卵をからめたもの等、初めて見る料理が沢山ありました。



図 タイでの食事 (左) トムヤンクン (右) カーオ・オブ・サップロツ

### ● 自由行動

最終日は、1日自由行動でした。明治大学からの留学生が1班1人について案内してくれたため、不慣れな土地でしたが安心、安全に回ることができました。中にはタイの大学で仲良くなった学生と回る人など様々な班がありました。私の班は、アユタヤに行きまし

た。アユタヤは、私たちが住むホテルからかなり離れているため、あらかじめ学校の方でバスを団体でレンタルして行きました。

#### 1、バーン・パイン離宮

広い庭園内にタイ建築の建物や、王の部屋及び謁見の間などに使われていた西洋風の建物等の様々な色鮮やかな建物が点在していました。特に、池の小島に建てられた物見の塔から見る庭園の景色は絶景でした。また、タイ独特の動物の形をした植え込みも印象的でした。ちなみに、園内には武装した警察がいたる所に駐在していました。

#### 2、日本人町跡

ここは江戸時代に栄えた朱印船貿易の際にアユタヤに存在した外国商人のための住居等があった町の跡地でした。最盛期には「山田長政」を始めとした 1500 人余りの日本人が住んでいたとされています。ここには当時の日本人町の歴史についての博物館や記念碑が建っています

#### 3、ワット・ヤイ・チャイ・モンコン

セイロン（現スリランカ）に留学し帰国した僧侶たちのために初代王ウー・トーンが立てたといわれる寺院。寺院内には比較的大きな寝釈迦仏があり、観光客はそれに金箔を貼ったり、お香を焚いて祈りを捧げていました。境内の中央には 20 代王ナレースエンが建てた 62m もの高さの仏塔があり、そこから境内を一望することもできました。

#### 5、ワット・プラ・シー・サンペット

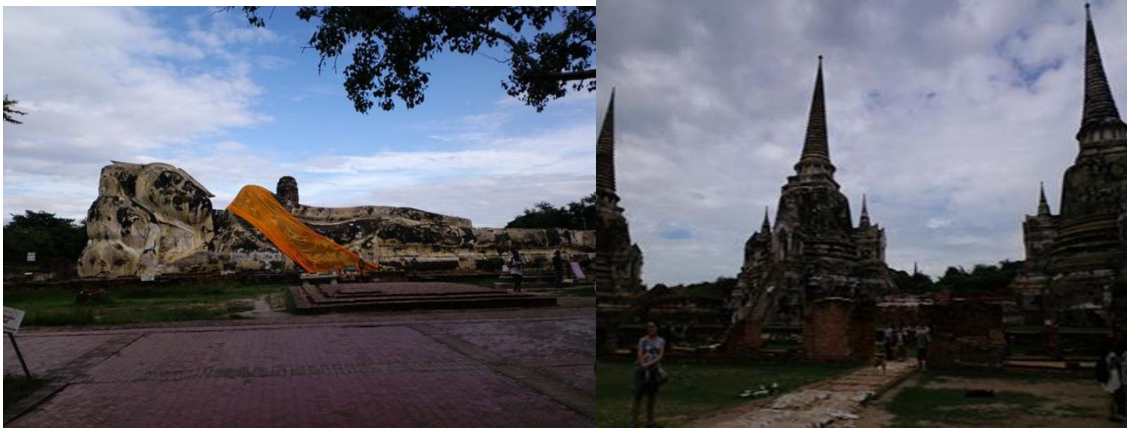
王宮跡の南にあるアユタヤ王朝の王室守護寺院。アユタヤの象徴ともいえる 3 基並んだ仏塔があり、それぞれに 3 人の王の遺骨が納められています。

#### 6、エレファントキャンプ

ワット・プラ・シー・サンペットの近くにあるエレファントキャンプでは、7分300Bで象に乗って遺跡を巡ることができます。結構揺れましたが、象の上からみる遺跡もまた一味違った感じに見えました。なお、象に乗る前と乗った後には、象使いに 20B程のチップを払った方がサービスが良いらしいです。また、キャンプ内では象関連のお土産を買う店もありました

#### 7、ワット・ローカヤースター

広々とした草原の中に全長 28m の大きな寝釈迦仏が横たわっていました。足の裏には 2011 年の洪水の際の跡を見ることができます。



## 8 まとめ

図 自由行動 アユタヤ

たった1週間のプログラムでした。しかし、この1週間のプログラムのために半年間の準備を含めた事前研修、タイの学生との交流、タイで野菜を輸出している日系企業の施設、様々なことに触れることができました。今日本でも農業の問題は大きな問題の一つです。社会では、国際化といったようなグローバル化という単語をよく耳にします。

今回のプログラムに参加することで、自分が如何に狭い視野で物事を見ていたのか痛感しました。日本にいるとついつい日本の農業の問題ばかり目が行きがちですが、もっと広い視野で農業の問題を考えてみることも大切なことなのではないかと思いました。他の学部ではなくほかならぬ農学部の学生だからこそ知ることができるような経験や学ぶためのやるきをこのプログラムを通じ学ぶことができました。